

アワビ類天然稚貝調査法ワークショップで クロアワビ研究内容を紹介

5月16日に神奈川県横須賀市において、「アワビ類天然稚貝調査法ワークショップ」が開催され、全国の水産試験場や磯根動物研究関係者など19名が参集しました。本ワークショップは、国立研究開発法人水産研究・教育機構中央水産研究所が主催し、アワビ類稚貝調査法の実地体験形式での紹介や各都府県のアワビ類稚貝の分布生態について議論されました。

当センターからは、クロアワビ潜水漁業総合管理技術開発で進めている研究内容について紹介しました。京都府の丹後海では、クロアワビ稚貝の生残を高めるために好適な生息環境が必要であり、ウニが作り出す餌環境やシェルター効果が稚貝の棲み場として重要であることを報告しました。ウニとクロアワビ稚貝の関係に着目した研究は初めてで、多くの研究者が興味を示し、活発な議論を行うことができました。

今後も、このような機会を活用し、全国情報や最新の知見を研究の推進に役立てて、より良い成果を得られるようにします。



実地調査で発見されたアワビ稚貝



報告スライド